

米中関係の見通しと日本企業への影響について意見交換

メデイロス元米大統領特別補佐官との懇談会を開催

開催日：2019年10月25日(金)

場所：経団連会館

プレゼンテーション「2020年の中国における変化、危機、そして機会」

エバン・メデイロス 元米大統領特別補佐官兼国家安全保障会議(NSC)アジア上級部長

ジョージタウン大学 教授・外交政策学院アジア研究科チェア

アジア・グループ シニア・アドバイザー

経済広報センターは10月25日、東京・大手町の経団連会館で、米国のオバマ政権で大統領特別補佐官兼国家安全保障会議(NSC)アジア上級部長を務めたエバン・メデイロス氏を招き、会員企業幹部との懇談会を開催した。

米中間の貿易摩擦やハイテク覇権争いが世界経済に影響を及ぼすなか、中国の経済・産業政策や米国の対中政策の成り行きが、日本企業の事業活動に及ぼす影響などについて、幅広い観点から活発な意見交換が行われた。

メデイロス氏は、2013年から3年間、オバマ前大統領のアジア太平洋担当のトップ・アドバイザーとして、外交、防衛、経済、インテリジェンスなどに関し対アジア太平洋政策の調整に取り組み、米中首脳会談をはじめ米中間交渉に深く関わってきた。現在は、ジョージタウン大学外交政策学院アジア研究科チェアを務めるとともに、国際戦略アドバイザーリーファームのアジア・グループのシニア・アドバイ

ザーとして、各社に戦略的アドバイスと分析を提供している。

メデイロス氏は、中国の外交や経済・産業政策の前提となる習近平中国国家主席の政策ビジョンを紹介し、中国経済が新たな「政治的段階」に入ったことを指摘。米中間の貿易摩擦は、短期的には小規模な合意に至る可能性はあるものの、中長期的には外交・防衛・安全保障問題が絡んでいることから、その解決は容易ではないと述べた。

以上

